

2011 年 IEEE 関西支部

総会資料

2011/04/12 改訂版△1

P2,3 MDC メンバー改訂

P26 会計報告を監査結果に修正

P27 予算 2012 年への繰り越しに訂正

P27 本部報告(L50)に合わせて総会用交通費を学生研究奨励費に含めた

2011 年 2 月 16 日

IEEE 関西支部

総会資料目次

Program

I.	2011 年関西支部役員・理事	p.2
II.	2011 年 Kansai Chapter 役員	p.5
III.	2010 年関西支部活動報告	p.7
IV.	関西支部会員数	p.19
V.	2011 年関西支部活動計画	p.21
VI.	2010 年関西支部会計報告	p.26
VII.	2011 年関西支部予算案	p.27
VIII.	受賞者	p.28
IX.	関西支部 Bylaws	p.29

2011 年 IEEE 関西支部総会

1. 日時： 2011 年 2 月 16 日（水） 15 時 00 分～17 時 00 分
2. 場所： 大阪大学中之島センター 7階 セミナー室
〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53
3. 総会スケジュール
 1. 支部長挨拶
 2. 役員・理事紹介
 3. 2010 年活動報告および 2011 年事業計画
 4. Chapter 役員および活動紹介
 5. 2010 年会計報告および 2011 年予算案
 6. IEEE 関西支部 GOLD 賞授賞式
 7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
<休憩>
 8. IEEE 関西支部メダル授賞式
 9. IEEE 関西支部 新 Fellow 紹介及び研究紹介
 10. 閉会の挨拶

I 2011年関西支部役員・理事

Section Officers

Chair:	片桐 滋	(同志社大学)
Vice Chair:	矢野 厚	(住友電気工業)
Secretary / Treasurer:	村瀬 亨	(住友電気工業)

理事

MDC Chair:	小倉 武	(立命館大学)
NC Chair:	山本 裕	(京都大学)
SAC Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
TPC Chair:	中谷 智広	(日本電信電話)
AC Chair:	楠本 真二	(大阪大学)
COC Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)

理事 (Past Officers, Past Committee Chairs)

Past Chair:	中村 行宏	(立命館大学)
Past Vice Chair:	櫛木 好明	(パナソニック)
Past Secretary/Treasurer:	上田 大助	(パナソニック)
Past MDC Chair	山内 寛紀	(立命館大学)
Past TPC Chair	山田 武士	(日本電信電話)
Past AC Chair	菊野 亨	(大阪大学)
Past COC Chair	山本 幹	(関西大学)

事務局

事務局 :	平野 和夫	(住友電気工業)
-------	-------	----------

Committee Officers

a. Membership Development Committee : △ 1

Chair :	小倉 武	(立命館大学)
Secretary :	熊木 武志	(立命館大学)
Member :	長岡 宏	(オムロン)
	赤木 永治	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府大)
	大仲 清司	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	宮本 雅之	(シャープ)
	佐々木 鉄雄	(関西電力)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	田邊 信二	(三菱電機)
	辰巳 昭治	(大阪市立大学)
	有本 和民	(ルネサス エレクトロニクス)

木村 啓明	(ローム)
棚橋 成夫	(京セラ)
加藤 貴敏	(村田製作所)

b. Nominations Committee :

Chair:	山本 裕	(京都大学)
Member:	池田 雅夫	(大阪大学)
	植村 俊亮	(奈良産業大学)
	酒井 英昭	(京都大学)
	三瓶 政一	(大阪大学)
	寺西 信一	(パナソニック)
	和田 修	(神戸大学)

c. Student Activities Committee :

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Member:	宮本 伸一	(大阪大学)
	久門 尚史	(京都大学)
	永田 真	(神戸大学)
	芳賀 博英	(同志社大学)
	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
	小橋 昌司	(兵庫県立大学)
	泉 知論	(立命館大学)
	花田 良子	(関西大学)

d. Technical Program Committee :

Chair :	中谷 智広	(日本電信電話)
Vice-chair :	尾形 哲也	(京都大学)
Secretary :	青木 直明	(パナソニック)

e. Awards Committee :

Chair :	楠本 真二	(大阪大学)
Member :	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	太田 能	(神戸大学)
	大橋 正治	(大阪府立大学)
	岡 育生	(大阪市立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	土屋 達弘	(大阪大学)
	中村 匡秀	(神戸大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	山田 晃久	(シャープ)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	榎木 哲夫	(京都大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	藤川 和利	(奈良先端科学技術大学院大学)
	三好 誠司	(関西大学)

村田 英一 (京都大学)

f. Chapter Operations Committee :

Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	飯塚 邦彦	(シャープ)
	石尾 秀樹	(大阪工業大学)
	石川 容平	(村田製作所)
	潮 俊光	(大阪大学)
	真鍋 武嗣	(大阪府立大学)
	酒井 英昭	(京都大学)
	杉本 謙二	(奈良先端科学技術大学院大学)
	高橋 明	(シャープ)
	野田 進	(京都大学)
	坂本 直史	(ルネサス ソリューションズ)
	安田 岳雄	(日本アイ・ビー・エム)

II 2011 年 Kansai Chapter 役員

EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter :

Chair:	高橋 明	(シャープ)
Vice Chair:	佐々 誠彦	(大阪工業大学)
Secretary:	小瀧 浩	(シャープ)
Treasurer:	前元 利彦	(大阪工業大学)

SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter :

Chair:	飯塚 邦彦	(シャープ)
Vice Chair:	藤島 実	(広島大学)
Secretary:	満仲 健	(シャープ)
Treasurer:	杉村 武昭	(ルネサス エレクトロニクス)

CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter :

Chair:	潮 俊光	(大阪大学)
Vice Chair:	沼 昌宏	(神戸大学)
Secretary:	井上 馨	(同志社大学)
Treasurer:	和田 昌浩	(甲南大学)

APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter :

Chair:	真鍋 武嗣	(大阪府立大学)
Vice Chair:	前田 忠彦	(立命館大学)
Secretary:	塩見 英久	(大阪大学)
Treasurer:	山本 温	(パナソニック)

COMS (Communications Society) Kansai Chapter :

Chair:	石尾 秀樹	(大阪工業大学)
Vice Chair:	熊澤 宏之	(三菱電機)
Secretary/Treasurer:	岡田 実	(奈良先端科学技術大学院大学)

CS (Computer Society) Kansai Chapter :

Chair:	安田 岳雄	(日本アイ・ビー・エム)
Vice Chair:	越智 裕之	(京都大学)
Vice Chair:	富山 宏之	(立命館大学)
Secretary:	中島 雅逸	(パナソニック)
Treasurer:	泉 知論	(立命館大学)

MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter :

Chair:	石川 容平	(村田製作所)
Vice Chair:	石崎 俊雄	(龍谷大学)
Secretary:	柏 卓夫	(古野電気)
Secretary:	堀井 康史	(関西大学)
Treasurer:	北沢 祥一	(国際電気通信基礎技術研究所)

PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter :

Chair:	野田 進	(京都大学)
Vice Chair:	伊東 一良	(大阪大学)
Secretary:	杉立 厚志	(三菱電機)
Treasurer:	加藤 友章	(日本電気)

SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter :

Chair:	酒井 英昭	(京都大学)
Vice Chair:	澤田 宏	(日本電信電話)
Secretary:	戸田 智基	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	林 和則	(京都大学)

CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter :

Chair:	坂本 直史	(ルネサス ソリューションズ)
Vice Chair:	松田 守正	(三菱電機)
Secretary:	長谷 智弘	(龍谷大学)
Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

III 2010年活動報告

1. 総会

2010年2月22日(月)に中央電気倶楽部513号室において、2010年総会を開催した。GOLD Award授賞式、学生研究奨励賞授賞式、2010年新Fellow昇格者5名の紹介を行い、内4名の新Fellowによる記念講演等を実施した。

参加者：44名

2. 理事会

第1回理事会 1月26日 キャンパスプラザ京都 出席者：10名
・2010年総会について

第2回理事会 2月22日 中央電気倶楽部 出席者：10名
・2010年総会について・本部報告について

第3回理事会 5月10日 京都リサーチパーク 出席者：11名
・Japan Council 理事会報告 ・2010年第1回Japan Council 理事会報告
・次期支部役員選出について ・次期Japan Council 役員候補指名について

第4回理事会 6月22日 キャンパスプラザ京都 出席者：9名
・IEEE 関西支部2010年活動中間報告 ・支部メダル贈呈について
・Executive Nominations Committee (ENC)の任命
・公益法人制度改革の対応について

第5回理事会 9月13日 京都テルサ 出席者：10名
・Japan Council 理事会報告 ・次期役員候補選出 ・各Committee 活動状況報告
・GOLD賞、学生研究奨励賞について ・会計中間報告

第6回理事会 12月22日 京都桜鶴苑 出席者：21名
・JC役員選挙結果報告 ・次期役員メンバー ・2010年活動報告
・2011活動計画 ・受賞者選定 ・引き継ぎ事項

3. 関西支部主催講演会

Technical Program Committeeの企画により以下の関西支部主催講演会を実施した。

・関西支部主催第57回技術講演会

日時：2010年1月23日(金) 13:00～15:30 (参加者58名)

場所：京都大学 工学部 電気総合館

題目：「パーティクルフィルタ～入門から最前線まで」

講演者：生駒 哲一 氏 (九州工業大学大学院 准教授)

満上 育久 氏 (京都大学学術情報メディアセンター研究員)

菅野 裕揮 氏 (京都大学大学院情報学研究科博士後期課程)

・関西支部主催第58回技術講演会

日時：2010年4月9日(金) 14:00～16:05 (参加者78名)

場所：ホテルグランヴィア大阪

題目：黒四発電所、太陽電池 IEEE Milestones 認定記念講演会

講演者：Mr. Joseph A. Kalasky (IEEE History Committee)

大野 栄一 氏 (Japan Council History Committee Chair)

中西 規 氏 (元関西電力)

鈴木 皓夫 氏 (鈴木ソーラー研究所代表)

- ・ 関西支部主催第 59 回技術講演会
 日時：2010 年 7 月 26 日（月） 14:00～16:40 （参加者 58 名）
 場所：大阪新阪急ホテル
 題目：オーディオ信号のデジタル化：これまでとこれから
 講演者：穴澤 健明 氏（社団法人 日本オーディオ協会理事）
 山本 裕 氏（京都大学大学院情報学研究科 教授）

- ・ 関西支部主催第 60 回技術講演会
 日時：2010 年 7 月 29 日（木） 9:30～11:30 （参加者 20 名）
 場所：大阪府立大学
 題目：Recent Topics in Evolutionary Computation
 講演者：Yew Soon Ong 氏（Nanyang Technological University）
 Kay Chen Tan 氏（National University of Singapore）

- ・ 関西支部主催第 61 回技術講演会
 日時：2010 年 10 月 15 日（金） 13:00～16:30 （参加者 85 名）
 場所：奈良商工会議所
 題目：遷都 1300 年、古代の文化と技術に学ぶ
 講演者：長瀬 正 氏（竹中工務店）
 西村 勝尚 氏（大林組）
 土佐 尚子 氏（京都大学学術情報メディアセンター 教授）

4. 各 Committee 活動

a. Membership Development Committee

本年度も、MDC 委員会に参加する機関を通して、IEEE 活動を広く周知して新会員を増やすことと、Senior Member への Upgrade を推進することを活動の中心とした。結果として、

- (1) 12 月現在、会員数は 2,205 名となった（IV 関西支部会員数参照）。昨年度同時期と比べて、ほぼ同数（2,204 名）の会員の確保を実現した。
- (2) 昨年同様に委員会を通じて、新 Senior Member へ授与する「関西支部メダル」の周知に努めた。また、Upgrade 申請がし易いようにホームページ上での申請書サンプルなどを広く周知させた。
- (3) 昨年と同様に Student Activity Committee (SAC) との連携を強めて学生会員の増強をはかった。しかしながら、その結果、学部生の会員数は昨年同様に 100 名を超えるに至ったが、大学院生の会員数が若干減少した。
- (4) MDC の企業委員のメンバーの交代（2 名）と、事業部の再編等による委員の退任があった。

b. Nominations Committee

- (1) 昨年と同様に、支部役員の方々と連携をとり、Senior Member の拡大をはじめとする、正会員や学生会員の拡大活動を行った。
- (2) 2010 年 1 月 1 日付けで以下の 5 名が新 Fellow に昇格した。有本和民（ルネサス テクノロジ）、羽馬洋之（三菱電機）、畑 豊（兵庫県立大学）、大村泰久（関西大学）、寺西信一（パナソニック）の各氏である。うち 4 名

が関西支部推薦であった。

- (3) 2010年3月1日締め切りの2011年 Fellow Nomination に際し、関西支部から5名のFellow 推薦を行なった。
- (4) 2012年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼し、関西支部からの推薦者を決定することとした。また、Senior Member の方々へ Fellow 制度の案内を行い、昇格への関心の醸成を行った。推薦依頼があった方々に手続き情報をお送りし、関西支部からの Fellow 推薦準備を開始した。

c. Student Activities Committee

SAC 委員会では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行ってきた。

- (1) 既存5大学（大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学）の Student Branch に加え、関西大学が Student Branch 設立を申請し、10月22日に承認され、6大学体制となった。これらの Student Branch を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、Student Branch 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) Student Branch による自主的な活動としては、昨年までと同様6大学合同で関西支部 Student Branch 交流会を12月11日に大阪大学にて企画、開催した。また、立命館大学 IEEE Student Branch で、例年開催している English Presentation Competition を10月8日に開催し、関西支部の他の全ての Student Branch から参加者を得て、23件の発表、58名の参加者を得た。優秀発表者に IEEE 関西支部 Student Activities Committee から表彰状を授与した。
- (3) Region 10 SAC で Special Initiative として実施している GINI (Global Integrated Network of IEEE) について、7月24日に大阪大学にて Japan Council GINI のキックオフ会合を主催した。10月15日～16日に香川大学において開催された IEEE 学生ブランチリーダーシップトレーニングワークショップに10名の学生を派遣した。
- (4) Membership Development Committee と Student Activities Committee と合同で委員会を開催（4月、12月）、連携して会員の増強、GOLD 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (5) Award Committee と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。

d. Technical Program Committee

	日 時	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE 会員参加者)	共催・協賛組織名
第 57 回	2010 年 1 月 23 日	京都大学 工学部 電気総合館	生駒 哲一 氏 (九州工業大学大学院 准教授) 満上 育久 氏 (京都大学学術情報メディアセンタ ー研究員) 菅野 裕揮 氏 (京都大学大学院情報学研究科博士 後期課程)	58(29)	パーティクルフィル タ研究会
第 58 回	2010 年 4 月 9 日	ホテルグランヴィ ア大阪 名庭	Mr. Joseph A. Kalasky (IEEE History Committee) 大野 榮一 氏 (Japan Council History Committee Chair) 中西 規 氏 (元関西電力) 鈴木 皓夫 氏 (鈴木ソーラー研究所代表)	78(24)	
第 59 回	2010 年 7 月 26 日	大阪新阪急ホテル	穴澤 健明 氏 (社団法人 日本オーディオ協会理事) 山本 裕 氏 (京都大学大学院情報学研究科 教授)	58(25)	AC・Net(情報通信技 術研究交流会)
第 60 回	2010 年 7 月 29 日	大阪府立大学	Yew Soon Ong 氏 (Nanyang Technological University) Kay Chen Tan 氏 (National University of Singapore)	20(6)	大阪府立大学計算知 能研究所
第 61 回	2010 年 10 月 15 日	奈良商工会議所	長瀬 正 氏 (竹中工務店) 西村 勝尚 氏 (大林組) 土佐 尚子 氏 (京都大学学術情報メディアセンター教授)	85(6)	関西 CAE 懇話会 財団法人 計算科学振興財団

e. Awards Committee

2009 年度に引き続き 2010 年「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の募集を行った。本賞は 2008 年度から、学生会員、大学や研究所の若手研究員、企業の若手会員の 3 種類の表彰を行っている。今年度は 10 月 29 日に応募を締め切って、全体で 6 名の応募者があった。当委員会による選定の後、3 名の受賞者を 12 月 22 日の支部理事会で決定した。

また、2010 年「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、今年度も継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。今年度は 10 月 18 日に応募を締め切ったところ、18 名の応募者があった。当委員会による選定の後、受賞者を 12 月 22 日の支部理事会で 12 名の受賞者を決定した。

なお、2010 年 GOLD 賞の表彰楯の作成費と 2010 年学生研究奨励賞の賞状作成費ならびに副賞については Japan Council Section 支援費からの支援によっている。

f. Chapter Operations Committee

2006年度の関西支部理事会において、100名以上の会員をもつソサイエティについては是非Chapterを設立いただきたい、また50名以上の会員をもつソサイエティについては実現可能であればChapterを設立いただきたい、という方向が決定した。この趣旨に則り、2006年にChapter Promotion Committeeを

設立し、それ以後以下のように、7 Chapterが新設された。Electron Device, Solid-State Circuits, Circuits and Systemsの3つの既設Chapterとあわせ、関西支部は現時点で10のChapterを擁している。

ソサイエティ	略称	設立時期
Antennas and Propagation	AP-03	2006年12月
Computer	C-16	2006年12月
Microwave Theory and Techniques	MTT-17	2006年12月
Communications	COM-19	2006年12月
Lasers and Electro-Optics	LEO-36	2007年4月
Signal Processing	SP-01	2007年12月
Consumer Electronics	CE-08	2008年12月

2007年度からChapter Operations Committeeと名称変更し、その役割を新しいChapter設立支援のみならず、既設Chapterの活動支援も含むものとしている。今年度は、Japan Council COC meetingへの支部内Chapterの参加を促し関西支部内のChapter活動の周知、同meetingに提出される各Chapterの報告書提出を徹底するようお願いしChapter間の活動情報の共有、ホームページ更新状況の芳しくないChapterに対し更新するよう依頼し支部内会員への活動周知、など支部内Chapterの活動活性化に向けた活動を行った。

5. Kansai chapter活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

5月13-14日の二日間にわたってIEEE EDS 関西チャプター主催の電子デバイス国際会議である”2010 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (2010 IMFEDK)”を関西大学100周年記念会館にて開催した。学生や若手研究者を中心に154名の参加を戴き、3件の基調講演に続いて、2件の招待講演と16件の一般講演、39件のポスターセッション(ショートプレゼンテーション発表付き)を行なった。基調講演は、田中真奈実氏(AIST)に癌の探索と応用について、下山勲教授(東京大学)に情報及びロボット技術における電子デバイスについて、平本俊郎教授(東京大学)にナノスケールトランジスタの将来動向に関して講演を戴いた。本会議に先立って「酸化亜鉛の結晶成長とデバイス応用」と「CMOS-LSI低電力化技術」に関するTutorial講演会を行い、若手エンジニアや多数の学生参加を頂いた。

技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキウム電子デバイスワークショップを10月22日に関西大学100周年記念館にて開催した。当日は39名の関西在住の研究者および学生の参加を頂き、国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂き、活発な討論が行われた。

Japan Councilに報告済みであるが、1月26日には、IEDM2009の報告会を開催した。2月25日には、DL講演会を開催し、染谷隆夫教授(東京大学)に有機トランジスタのアンビエントエレクトロニクス応用に関するご講演を戴いた。

この他、EDS News Letterに活動成果を投稿し、2010年4月、7月、10月の各号に記事が掲載された。

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2010年6月30日神戸にてSSCS技術講演会を主催した。2010年12月20日にも同じく神戸でSSCS技術講演会を主催した。

6月30日は“IEEE Symposium on VLSI Circuits 2010 報告会”と題して、Symposium on VLSI Circuits 2010 プログラム副委員長の永田真教授（神戸大学）の同会議概要ご報告を皮切りに、他9名の発表者にご講演頂いた。この技術講演会では57名の参加者を集めて、活発な質疑応答が行われた。

12月20日は“IEEE Asian Solid-State Circuits Conference (A-SSCC) 2010 報告会”と題し、同会議における発表者をお招きして、最新の技術情報についてご講演頂いた。35名の参加者があった。

なお、技術講演会の詳細は下記URLに掲載している。

<http://www28.cs.kobe-u.ac.jp/sscs/>

この他、LSIとシステムのワークショップ（5月）、VDEC デザイナーズフォーラム（6月）、集積回路研究会（7月、8月、10月）、シリコンアナログRF研究会（7月、11月）、集積回路研究会サマースクール（8月）、Integrated Circuits and Devices in Vietnam（8月）、VLSI夏の学校（8月）、VDECリフレッシュ教育（12月）、ミリ波無線技術とその応用に関する国際ワークショップ（12月）に協賛した。特にLSIとシステムのワークショップでは若手研究者のポスター発表にIEEE SSCS Kansai Chapter Academic Research Awardを贈呈し、VDEC デザイナーズフォーラムでは協賛金により若手LSI設計者に情報交換の場を提供した。このように技術者及び若手設計者が多数集まるイベントに協賛することで、活動のアピールと会員獲得に努めた。

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2010年は合計6件の技術講演会などを実施した。具体的には次のとおりである。

- (1) 2010年7月20日に関西学院大学 大阪梅田キャンパスにおいて、技術講演会(高集積LSIとSiPにおける物理設計)を開催した。大阪大学 高橋篤司先生と、台湾 National Tsing Hua University の Prof. Ting-Chi Wang, にご講演いただき、13名の参加者を得て、有益な技術・研究交流を行うことができた
- (2) 2010年9月27日～28日に、京都工芸繊維大学において、VLD設計技術研究会を共催した。4件の招待講演を実施、延べ約66名の参加者を集め、質の高い講演と議論を行うことができた。
- (3) 2010年10月27日に、大阪大学 豊中キャンパスにおいて、技術講演会(非線形現象をめぐる最近の話題)を開催した。北陸先端科学技術大学院大学 徳田 功 先生と、立命館大学 宮野尚哉先生にご講演いただき、17名の参加者を得て、活発なディスカッションを行うことができた。
- (4) 2010年10月28日と29日に、大阪大学豊中キャンパスにおいて開催された電子情報通信学会 非線形問題研究会に協賛した。延べ52名の参加者を集め18件の発表が行われ、有益な技術・研究交流を行うことができた。
- (5) 2010年11月18日と19日に、関西大学で開催された電子情報通信学会 回路とシステム研究会に協賛した。延べ71名の参加者を集め19件の発表が行われ、有益な技術・研究交流を行うことができた。
- (6) 2010年11月19日に、関西大学 先端科学技術推進機構において、講演会

(システム数理的手法の応用)を開催した。愛知工業大学 河辺 義信先生と、山口大学大学院 山口 真悟先生にご講演いただき、33名の参加者を得て、活発なディスカッションを行うことができた。

以上、最新技術動向に関する技術講演会の開催と、参加者の交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努めた。この他、7月20日、10月27日に役員会を実施している。なお、技術講演会の詳細は下記の URL に掲載している。

<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

4月9日に電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会で、IEEE AP-S 特別講演を、AP-S Kansai Chapter 主催で開催した。当日は進士 昌明先生（元東海大学）に「アンテナ開発と無線システム設計」のご講演をいただき、38名の参加者を得て活発な議論を行うことができた。

8月6日にキャンパスポート大阪にて、次世代アンテナ・伝搬技術チュートリアルワークショップを主催した。篠原 真毅先生（京都大学）に「マイクロ波を用いた無線電力伝送の基礎－アンテナ技術を中心に－」についてご講演いただき、参加者総数は65名であった。

11月20日には大阪府立大学にて、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催した。唐沢 好男先生（電気通信大学）に「相関行列の固有値から見るマルチパス伝搬の本質－目から鱗が落ちる電波伝搬理解－」についてご講演いただき、参加者総数は41名であった。

12月4日には大阪大学において、関西アンテナ伝播若手技術交流会を IEEE MTT-S Kansai Chapter と共催で開催した。関西電機メーカー等の若手技術者が大学院生を対象に実際の研究開発活動の体験を講演し、討論した。

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

2010年10月20日に Communication Society Kansai Chapter 主催の技術講演会および見学会を NTT ドコモ関西西日本オペレーションセンター（大阪府大阪市住之江区南港北 1-9-9）において主催した。講演会では、NTT ドコモ先端技術研究所所長の村瀬淳様より「携帯電話ネットワークがもたらす情報社会の変革」と題して講演が行われた。引き続き NTT ドコモ西日本オペレーションセンターの見学会を開催した。ここでは、NTT ドコモの西日本管内の通信網の制御および監視を行うオペレーションルームやマイクロ波回線のためのタワーなどの設備の見学を行った。出席者数は30名であった。

2010年11月19日、兵庫県姫路市において開催された URSI-C 小委員会主催の第9回公開研究会に協賛した。研究会では、無線電力伝送とレクテナに関する4件の講演が行われた。

2010年12月17日には、奈良先端科学技術大学院大学（奈良県生駒市）において Communications Society Kansai Chapter 主催の技術講演会を開催した。原孝雄氏（奈良先端科学技術大学院大学）より、「衛星通信、50年の研究の歴史と最近の技術」と題して、講演が行われた。最新技術動向に関する技術講演会の開催と、参加者の交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努めた。

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

7月13日(火)に、藤川 悟氏(パナソニック株式会社 戦略半導体開発センター所長)を招いて、“3D 立体映像システムを支えるデジタル技術と半導体技術”と題して講演を主催した。TV技術の進歩と歴史や、進化しつづけるデジタル家電の市場とそれに対応する半導体技術の説明から、現在最も注目されている3DTVの方式(メガネ方式、裸眼方式等)とそれを実現するための技術について解説が行われた。また本技術の将来性についても紹介された。講演会では、50名(IEEE会員:20名)の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

12月21日(火)に、藤原 秀雄氏(奈良先端科学技術大学院大学 情報科学科 教授)を招いて、“テスト生成アルゴリズム半世紀の歩み”と題して講演を主催した。テスト生成アルゴリズムの半世紀の歴史について、技術的観点から解説された。また本テスト技術の開発のきっかけとなった、ベンチマークについても紹介された。講演会では、活発な質疑応答がなされ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

上記にあるとおり、業界で注目されている最先端技術についての講演会を主催し、関連技術者及び学生を多数集め、活動のアピールと会員獲得に務めた。

技術講演会の詳細は下記のURLに掲載している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTs (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

今年度は4つのミッション(融合的産業の創出, 電力ネットワーク要素技術の確立, シームレスな情報通信事業への貢献, 融合的学際領域や新産業領域創出に対するプラットフォーム化)を定め, 対応する8つの戦略的ワークショップのカテゴリを決定し, 活動を開始した。

技術講演会としては, 最近, マイクロ波分野のみならずエネルギー伝送技術分野でホットなトピックとなっている「無線電力伝送」に関するワークショップを昨年に引き続き第2回を企画・開催(主催)し, 4月17日(土)に龍谷大学において栗井郁雄教授(龍谷大学), 松木英敏教授(東北大学), 安間健一様(三菱重工業), 川崎繁男様(JAXA)を招いて技術講演を行った。出席者はこれまでの関西チャプター単独主催事業としては最大数を数え, 105名であった。7月24日(土)には上述する戦略的ワークショップとして化学分野との境界領域を検討する「新戦略領域シリーズ 第1回マイクロ波マテリアルサイエンスワークショップ」(主催)を企画, 開催し, 園部太郎様(京都大学), 杉山順一様(産業総合研究所), 香取義重様(三菱総合研究所), 田村博様(村田製作所)を招いて京都大学にて講演を行い, 63名の異分野間で活躍する技術者がディスカッションを行う貴重な場となった。また, 10月23日(土)にはすでに4回目を迎えるが, 「メタマテリアル」に関するワークショップを, アクティブ回路や環境電磁工学, 光の領域までカバーして企画・開催し, 小寺敏郎様(山口大学), 川島宗也様(NTT), 迫田和彰様(物質・材料研究機構), 富田知志様(奈良先端科学技術大学院大学), 畠山賢一教授(兵庫県立大学)を招いて講演を行い, 60名の参加者があった。これら技術講演会は関西におけるマイクロ波分野の主要な企業および大学からの委員で構成される「技術委員会 (Technical Committee)」が中心となって企画運営している。6月26日(土)にはGold Member, Student

Memberによる「若手技術委員会 (WakaTe Committee)」が主体となって企画した「第3回マイクロ波英語発表会」(主催)を開催した。これは学生、および企業入社後数年の若手技術者に対し英語で研究発表する場を与えるもので、13件の発表があり、そのうち3件を優秀発表者として表彰した。出席者は45名であった。12月4日(土)には「若手技術交流会」を開催した。これは企業の若手技術者4名に、学生を対象として企業における研究の実態や魅力について講演していただくとともに企業および大学の研究室によるポスター発表を行って、学生と企業の若手技術者が交流する場を提供する新しい形式の技術交流会である。本年もAP-S Kansai Chapterと合同で開催した。また、当日はProf. Janina Mazierskaから若手技術者へのメッセージとして"Adventures of a Women Engineer around the World"というタイトルで特別講演をしていただいた。

また、MTT-S Japan Chapterと共催で2010IEEE MTT-S Japan/Kansai Chapters Young Engineer Awardの受賞者選定を行い、3名が選出され、12月8日(水) Asia Pacific Microwave Conference (APMC)2010の開催期間中に授賞式を開催する。この賞は、指定のIEEE論文誌に掲載された原著論文の筆頭著者でかつ、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献のあった38歳以下の若手の研究者を表彰するものである。他に、信学会MW研究会やMWP研究会などへの協賛を行った。Membership関連ではMembership Committee(Chair: 上田哲也助教(京都工繊大))を設け、入会・アップグレードの推進を行った。本年は3名がSenior Memberへアップグレードした。

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

1月28日に京都大学(桂キャンパス)にてLEOS Annual Meeting 2009 報告会を実施し、「IEEE Photonics Society Annual meeting 2009 報告: Capturing and Reproducing Light Field in the Real World (3D Display)を中心に」(小池崇文(日立製作所))、「IEEE Photonics Society Annual meeting 報告: Ge Photo Detectors in Silicon Photonicsを中心に」(石川靖彦(東京大学))の2件を講演いただいた。同会場で電子情報通信学会 LQE、OPE、EMT、PN 各研究会と共催研究会を実施し55件の講演が行われた。3月12日には、京大にて京大第3回G-COE国際シンポジウム"3rd GCOE International Symposium on Photonics and Electronics Science and Engineering"(京大21世紀COE共催)を開催し、11件のご講演をいただいた。その他、1月から10月までで計8件のTechnical meetingを実施し、合計9件の講演が行われた。参加者は30名から100名といずれも盛況であった。

また神戸大学連携創造本部先端研究推進部門主催のWINPTech2009(Workshop on Information, Nano and Photonics Technology 2009)を協賛し、16件の口頭講演と多数のポスター講演を実施した。参加者は245名と盛況であった。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/leos/index.html>

I. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2010年はIEEE内外との連携により、2件の共催講演会を開催した。

まず6月13日に、NICT けいはんな研究所との共催により、“デジタルコンテンツのゆくえ”をテーマに掲げ、東京大学名誉教授の原島博先生、ならびに立命館大学教授の田村秀行先生という、信号処理とコンピュータグラフィクスを駆使した研究で功績のある2名を招いて講演会を行った。原島名誉教授からは、“メディアルネッサンスを生きる”というタイトルで、技術革新の興隆と衰退の歴史を、これまで日本における科学技術発展に尽力されるとともに一翼を担って来られた御自身の豊富な経験を基に分析され、今後の研究の方向性について示唆に富んだ講演を頂いた。また、田村教授からは、“未来創造学のすすめ ～近未来の情報機器とプレビジュラリゼーション～”というタイトルで、最新の研究成果をビデオクリップをふんだんに交えながら分かりやすくご披露頂き、活発な議論が交わされた。参加者数は、約50名であった。

また、11月25日に、IEEE SPS Japan Chapter, IEEE CAS Japan Chapter, EURASIP および信号処理シンポジウムの共催で、1999年から2000年にかけてIEEE Signal Processing SocietyのDistinguished Lecturerを務められたEPFLのProf. Martin Vetterliに“Sampling Theory and Practice: 50 Ways to Sample your Signal”と題して講演をいただいた。本講演は、関西地区の奈良女子大で開催される信号処理シンポジウム(主催：電子情報通信学会)の特別講演会を兼ねるものであり、シンポジウム参加者ばかりでなく、関西地区在住のIEEE Signal Processing Societyメンバーにも、Distinguished Lecturerによる講演を聴くことが出来る格好の機会となった。本講演会には、約100名の聴講者が出席した。

j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter

11月24日にIEEE CE関西Chapter主催の技術講演会を龍谷大学にて開催した。本研究会では、長谷智弘教授(龍谷大学)による、大学としては関西初のワンセグ放送実験試験局の実施報告をした。二年間にわたり実施したワンセグ放送の概要の紹介と、技術報告、今後のサービス内容についてお話があった。

12月17日にIEEE CE関西Chapterと映像情報メディア学会コンシューマエレクトロニクス研究会共催の研究会をキャンパスプラザ京都で開催した。本研究会では、長谷Chairが、米国よりIEEE Consumer Electronics SocietyのStephen Dukes会長を招聘し、同氏による基調講演が行われた。それに引き続いて、Panasonic、東芝、IHC、名古屋工業大学からの計4件の研究発表があった。

以上のように、本年よりIEEE CE関西Chapterは技術分野が密接な国内学会との良好な関係を持つ活動を始めた。その一環として、本年度は、映像情報メディア学会コンシューマエレクトロニクス研究会との関係を構築し、共催で研究会を開いた。また、情報処理学会とも同様の関係を持ちたいと考えており、12月15日に開催された同学会第1回コンシューマデバイス&システム研究会で長谷チェアが挨拶を行った。

また、若手研究者の支援活動として国際会議ISCEにて発表した中から選考する若手論文賞を設けている。本年はISCEが遠くドイツで開催されたため日本からの投稿件数が5件と少なかったため、審査委員会の審査の結果、賞の採択条件を満たし優れた研究発表をした1名に賞を与えた。

6. IEEE マイルストーン報告

Kansai Section から IEEE History Committee に IEEE Milestones として申請し認定された以下の2件

- (1) “Kurobe River No. 4 Hydropower Plant, 1956-63” (黒部川第四発電所)
- (2) “Commercialization and Industrialization of Photovoltaic Cells, 1959”
(太陽電池の工業化)

について、4月9日にホテルグランヴィア大阪の名庭にてマイルストーン贈呈式を開催した。これによってわが国の、(1)が13番目の、(2)が14番目の認定マイルストーンとなった。

7. 協賛会議・後援 (2010年実施分)

- ・ IMFEDK2010 (2010 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)
日時：2010年5月13日(木)～14日(金)
場所：関西大学100周年記念会館
- ・ CIE40 (The 40th International Conference on Computer & Industrial Engineering)
日時：2010年7月25日(日)～28日(水)
場所：淡路島夢舞台
- ・ ITST2010 (Intelligent Transport System for Telecommunications 2010)
日時：2010年11月9日(火)～11日(木)
場所：コープイン京都
- ・ 平成22年電気関係学会関西連合大会
日時：2010年11月13日(土)～14日(日)
場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス

8. Region 10 Meeting

2010年2月27日(土)～28日(日)の日程でフィリピンのセブにて開催された Region 10 Meeting には、関西支部より上田 Secretary が出席した。R10の活動報告と活動計画、会計報告、予算計画、や TENCON の紹介などが中心であった。なお、関西支部は、IEEE125周年記念事業としての第55回技術講演会に対して Region 10 より SSVR サポートを受けた為、講演会実施内容に関するポスターを会期中に掲示して報告を行なった。

9. WIE 活動

女性会員間の交流を目的として情報の共有化のため、MDC と SAC の合同ミーティングへ参加する等、MDC、SAC のサポートを得て、WIE 活動を組織化する方向で調整継続中である。

10. 情報の発信

- (1) 関西支部 Web ページ

Japan Council のサーバーをお借りして設置した下記ホームページでタイムリーに情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

- (2) 電子メールの利用

技術講演会、協賛会議等の案内をタイムリーに、電子メール・関西支部ホームページを用いて広く公告するなど情報発信に努めた。

(3) News Letter

GOLD 賞、学生研究奨励賞の募集をはじめ、関西支部に関する情報を **News Letter** 形式で 5 月と 9 月に提供した。

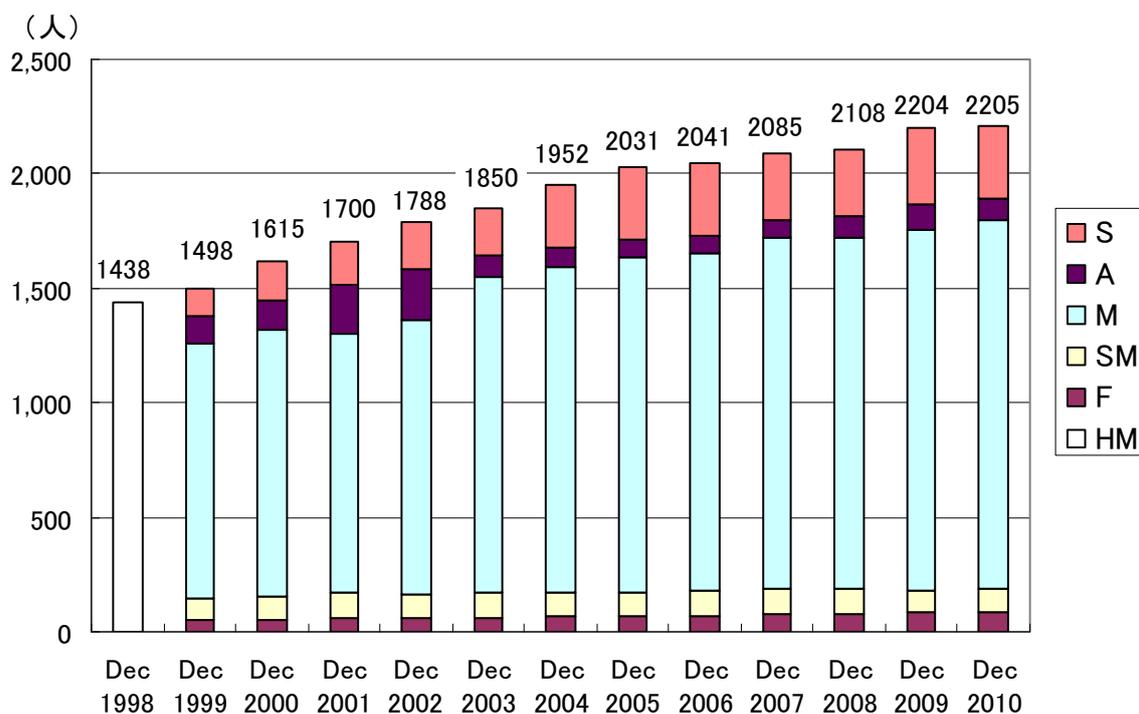
IV 関西支部会員数

1. グレード別会員数

2010.12 現在

グレード	Grade Code	会員数
Honorary Member	H	0
Life Fellow	LF	36
Fellow	F	50
Life Senior Member	LS	6
Senior Member	SM	98
Pending Senior Member	PS	0
Life Member	LM	45
Member	M	1,565
Pending Member	PM	0
Life Associate	LA	0
Associate	AM	89
Graduate Student Member	GSM	194
Student Member	StM	122
Total		2,205
Affiliate of an IEEE Society	AF	133

上記集計では、**Active** 会員のみをカウントし、かつ、他のセクションへの移籍者等は含まない。2010年12月においてAR(1年未満滞納者)は248名である。



2. ソサイエティ別会員数

2010.12 現在

ソサイエティ	Code	会員数
Signal Processing	SP 001	153
Broadcast Technology	BT 002	7
Antennas and Propagation	AP 003	74
Circuits and Systems	CAS 004	145
Nuclear and Plasma Science	NPS 005	22
Vehicular Technology	VT 006	36
Reliability	R 007	7
Consumer Electronics	CE 008	37
Instrumentation and Measurement	IM 009	19
Aerospace and Electronic System	AES 010	12
Computational Intelligence	CIS 011	84
Information Theory	IT 012	51
Industrial Electronics	IE 013	47
Engineering Management	EM 014	0
Electron Devices	ED 015	193
Computer	C 016	485
Microwave Theory and Techniques	MTT 017	148
Engineering in Medicine and Biology	EMB 018	73
Communications	COM 019	211
Ultrasonics, Ferroelectronics and Frequency Control	UFFC 20	45
Components, Packaging and Manufacturing Technology	CPMT 21	28
Oceanic Engineering	OE 22	10
Control Systems	CS 23	89
Robotics and Automation	RA 24	106
Education	E 25	13
Professional Communication	PC 26	1
Electromagnetic Compatibility	EMC 27	23
System, Man and Cybernetics	SMC 28	90
Geoscience and Remote Sensing	GRS 29	13
Social Implications of Technology	SIT 30	5
Power Engineering	PE 31	50
Dielectrics and Electrical Insulation	DEI 32	12
Magnetics	MAG 33	34
Industry Applications	IA 34	41
Power Electronics	PEL 35	46
Lasers and Electro-Optics	LEO 36	108
Solid-State Circuits	SSC 37	171
Intelligent Transportation Systems	ITSS 38	14
Product Safety Engineering	PSE 43	2
Total		2705

V 2011 年 活動計画

1. 総会

2011 年 2 月 16 日 (水) 15:00～17:00 の予定で、2011 年定例総会を実施する。

2. 技術講演会

Technical Program Committee の企画により、講演会を実施する。

3. 理事会

第 1 回理事会 1 月 18 日 京都テルサ

・2011 年活動計画 ・2011 年各 Committee の活動計画 ・2011 年予算 (案)

第 2 回理事会 2 月 16 日 大阪大学中之島センター

・2011 年総会について

2011 年中に、さらに数回の理事会を開催する予定である。

4. 関西支部 GOLD Award

2010 年に引き続き、Award 受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

5. 関西支部学生研究奨励賞

2010 年に引き続き、学生研究奨励賞受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

6. 関西支部メダル

2010 年に引き続き、関西支部内の新 Senior Member に対して関西支部メダルを授与する。

7. WIE 活動

関西支部内の WIE (Women in Engineering) 活動の活発化を目指す。

8. 各 Committee 活動計画

a. Membership Development Committee

(ア) 2011 年も、MDC 委員会に参加する機関を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、前年度と同様に会員の増加に結びつける。特に、新卒者の、学生会員から会員への移行が途切れないように、MDC 委員会参加機関に協力をお願いする。

(イ) 前年度と同様に、Student Activity Committee と連携を深め学生会員の増加につなげる。特に、前年度の会員数が伸び悩んだ大学院生について、重点的に会員増加に力を入れる。

b. Nominations Committee

(1) 2010 年と同様に、Membership Development Committee と共同して Senior Member だけではなく、正員、学生員の拡大をも図る。

(2) 2012 年 Fellow Nomination に向けて Fellow 候補者をできるだけ多く推薦する。推薦手順は 2010 年と同一の予定。

(3) Senior Member に対し Fellow 制度への関心の醸成を行う。

c. Student Activities Committee

(1) Student Branch の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、Student Branch の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学 Branch からの支援で、同志社大学、神戸大学他を対象に Student Branch の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 6 大学 Student Branch の協力により、Student Branch が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 6 大学 Student Branch を中心に、交流会を引き続き開催し、Student Branch 間の交流を深める。

(3) Affinity Group 設立準備への協力

関西支部で検討されている GOLD ならびに WIE の Affinity Group 設立準備に関して、各 Student Branch 所属の GOLD 会員ならびに女性会員と密接に連携しつつ尽力する。

(4) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を (Awards Committee と共同する形で) 継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。

(5) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

2010 年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2011 年も 5 回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

e. Awards Committee

2010 年に引き続き、若手会員の増強施策としての「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の募集・選定作業、ならびに学生会員の増強施策としての「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の募集のより一層の活性化と選定作業を継続して行う。

また、中長期的視野で学生会員や若手会員のさらなる増強をめざして、予算措置を視野に入れながら新企画について検討を行う。

f. Chapter Operations Committee

関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、COC 委員会における各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う

報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、今後関西支部で新設を予定する Chapter に対し、その新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを通じ、新設に向けた支援を展開する。

9. Kansai Chapter 活動計画

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

2011 年も前年度に引き続き、国際会議、技術講演会を中心に積極的に活動を展開する。関西発の国際会議である”International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK)”は、5 月 19-20 日に関西大学 100 周年記念館において主催予定であり、特に関西地区の大学の学生の加入推進のため、Student Poster Paper Session のいっそうの充実を図る予定である。

定例の関西コロキウム電子デバイスワークショップも 10 月に開催の予定である。このワークショップでも、若手研究者の活躍を奨励する目的で、Award の充実を図る予定である。デバイスの最新研究開発動向を知る上で重要な国際学会である IEDM の報告会は 2011 年も 1 月 25 日に関西大学 100 周年記念館にて開催すると共に、日本国内の Distinguished Lecturer を招いての技術講演会 (DL Meeting) も開催する予定にしている。

この他、関西地区で開催される各種会議・研究会にも積極的に協賛し、引き続き会員獲得にも努めていく計画である。

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2011 年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。

6 月頃と 11 月頃に技術講演会を開催し、国内外より著名な VLSI 設計関連の技術者を招く予定である。また、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに協賛金と Award を出し、会員獲得に努める計画である。

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2011 年も 2010 年と同様に、技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。特に、著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップと共催、あるいは、協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。(8 月 研究会共催予定、9 月 NOLTA2011 協賛予定、11 月 IUTAM 協賛予定)

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

昨年に引き続き(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動することを予定している。具体的には、2011 年 9 月の電子情報通信学会アンテナ伝播研究会において IEEE AP-S Kansai Chapter 主催の

特別講演を予定している。6 月には英語発表会、11 月にはアンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ、12 月には若手交流会の開催を予定している。

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

技術講演会を中心に活動を展開し、学生および若手研究者を主な対象として質の高い講演および技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。7 月および 11 月頃に技術講演会を開催し、通信関連の若手研究者を中心に講演をいただく予定である。また、引き続き、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める。

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

2011 年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。

著名な国外研究者が集まる学会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討している。

また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

2011 年も策定したミッションに基づいた技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動することを予定している。さらに 5 月には日本で初めての International Microwave Workshop Series(IWMS)を Innovative Wireless Power Transmission: Technologies, Systems, and Applications と題して企画し、おうばくプラザ(京都大学宇治キャンパス)にて開催する。また、Japan および Nagoya Chapter とともに Korea-Japan Microwave Conference(KJMW)2011 の企画、開催を行う。加えて、Fellow および Senior Member への昇格候補者支援を引き続き行うとともに関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催/協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

2011 年も、6 回以上の技術講演会の企画・開催を目指す。2011 年度も、1 月 27 日~28 日には電子情報通信学会 LQE/OPE/EMT/PN 合同研究会(大阪大)と併催の形で丸田先生(阪大)による IEEE Photonics Society Annual Meeting 2010 報告会が決定している。

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2011 年も講演会の開催を中心とする活動を展開し、会員の学識、および知見の向上を図る。また、翌年から役員が刷新され、大学教職員が主要なポストを担当することから、学生の行事への参加を積極的に推進し、新しい会員の獲得に努める。Signal Processing Society は、対象が基礎から応用まで広範囲に及び、特に基礎部門については、異分野との交流により成果を上げられる話題も少なくないことから、これまで以上に他の学会や研究会との積極的な連携を図り、共催、協賛での行事開催に取り組む。

j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter

2010 から始まった映像情報メディア学会に加え、情報処理学会や画像電子学会との連携を深めることにより、2011 年も、関西地区で各種会議・研究会を開催したい。この様な活動を通じて、引き続き会員獲得を推進する。

2009 年 5 月に京都で、長谷 Chair が General Chair を務めた国際会議 13th IEEE International Symposium on Consumer Electronics (ISCE2009) は、250 件の講演発表が行われ成功裏に終了し、Consumer Electronics Society 内で高い評価が得られた。国際会議担当の副会長より、2010 年 9 月には長谷 Chair に、新しい国際会議を設立し、再び日本で開催することと、その General Chair の就任の意向打診があった。この件は 2011 年 1 月の AdCom 会議で、2012 年 10 月に開催が正式決定された。その結果、CE 関西 Chapter の Member を中心に本年度から準備に入る事になった。

若手に対する研究支援活動である若手論文賞は、本年の国際会議 ISCE がシンガポールで開催されることから多数の発表が見込めるので、例年通り 5 件の予算申請をするつもりである。

10. 協賛会議 (2011 年 1 月 31 日現在予定分)

- ・ IMFEDK2011 (International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)
日時：2011 年 5 月 19 日 (木) ～20 日 (金)
場所：関西大学 100 周年記念会館
- ・ 大阪電気通信大学平成 23 年 4 月京阪寝屋川市駅 新学舎竣工記念講演会
パナソニック講座「起業工学」
日時：2011 年 4 月 15 日 (金) ～7 月 29 日 (金) 14 回
場所：大阪電気通信大学

VI 2010年 会計報告

収入の部	予算案	実績	(単位：円)	
◆IEEE Entity 間勘定	4,369,820	4,744,229		
・ Section Rebate (IEEE 本部より)	1,084,164	1,103,876	\$12,612.85@87.52 円/\$	6/30
・ Section Assessment 2010 前期 (同上)	3,202,056	3,380,652	\$36,734.24@92.03 円/\$	4/13
・ Section Assessment 2010 後期 (同上)	57,816	49,701	\$602.96@82.43 円/\$	11/17
・ MDC Subsidy/Grants for Student Branch(同上)	25,784	0		
・ 監査費用支援金	210,000	210,000	本部より返還(外部監査費代)	5/6
◆その他	1,210,452	1,219,282		
・ Section 支援金 (GOLD Award 楯代)	63,000	63,000	JC より(2009 申請分)	4/6
・ Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	353,942	353,942	JC より(2009 申請分)	4/6
・ Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	115,890	115,890	JC より(2009 申請分)	4/6
・ Section 支援金 (WIE)	100,000	0		
・ Section 支援金 (Student Branch 支援費)	50,000	0		
・ Section 支援金 (Milestone 講演会支援費)	0	117,750		5/10
・ Section 支援金 (旅費)	15,000	0		
・ Section 支援金 (本部選挙投票率コンペ賞金)	0	20,000	本部選挙投票率コンペ賞金(3位)	12/16
・ IEEE Milestones 関連費用	312,620	312,620	Plaque 費用 09 年立替分(シャープ,関西電力)	1/29,2/26
・ 懇親会費徴収等	235,000	236,080	総会懇親会、忘年会、寄付△1	2/22,12/22
◆利息	0	740		2/22,8/16
◆2009年からの繰越金	1,673,805	1,673,805		
合計	7,254,077	7,638,056		

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4 × (Fellow, Senior 会員数 = 180) + \$3 × (Member, Associate, Student 会員数 = 2,007) + \$1.5 × (Affiliate 会員数 = 135) + \$200 × (Chapter 数 = 10) } × 1.10 + \$375 (Chapter Bonus) ※Chapter は APS, EDS, MTTs, PHOS, SCS 分

支出の部	予算案	実績	(単位：円)	
◆IEEE Entity 間勘定	3,473,272	3,682,713		
・ Japan Council 拠出金	3,259,872	3,427,353	前期:3,379,152,後期:48,201 (\$220×10+\$75×5(AP,ED,MTT,PHO,SSC) @87.52 円/\$)	4/20
・ Chapter Rebate	213,400	225,360		8/3
・ JC 支援費余剰金返却	0	30,000	IEEE Milestones 差額	11/4
◆会合・AWARD 費	1,546,890	1,650,672		
・ 総会費	200,000	321,257	会場費,懇親会費,資料印刷代	2/23,3/26
・ 講演会	90,000	142,631	講師謝礼など	1/23,4/9,7/26,7/29
・ 理事会費	200,000	387,637	会場代,飲食代	1/26,2/22,5/10,6/22
・ Committee 会合費	360,000	225,000	MDC/SAC 合同委員会	6/23,12/3
・ GOLD 賞費	65,000	63,000	楯代	2/10
・ 学生研究奨励費	366,000	350,734	賞金(11人),賞状代	2/22,6/30
・ 支部メダル費	115,890	115,890	造幣局	1/8
・ Student Branch 支援費	50,000	38,748	立命館大 EPC	11/18
・ WIE 支援費	100,000	0		
・ IEEE Milestones 関連費用	0	5,775	招待状印刷代	2/23
◆事務経費	237,000	255,590		
・ 外部監査費	210,000	210,000	本部監査費用支援金を充当	4/14
・ 事務用品費	2,000	6,060	ファイル等	
・ 旅費	15,000	11,900	GOLD 賞,学生研究奨励賞交通費補助	2/22△1
・ 通信費	10,000	27,630	郵送費、宅急便等	
◆雑費	35,000	22,293	為替手数料, 振込手数料等	
◆2011年への繰越	1,961,915	2,026,788		
合計	7,254,077	7,638,056		

VII 2011 年 予算案

収入の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	4,405,124	
・ Section Rebate (IEEE 本部より)	1,058,816	\$12604.95(2010.12 会員数より推定)
・ Section Assessment 2011 前期 (同上)	3,085,656	\$36,734(2010 年実績)
・ Section Assessment 2011 後期 (同上)	50,652	\$603(2010 年実績)
・ 監査費用支援金	210,000	本部より返還(外部監査費代)
◆その他	884,430	
・ Section 支援金 (GOLD Award 楯代)	163,800	JC より(2010 申請分)(3 個)
・ Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	352,000	JC より(2010 申請分)(11 名)
・ Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	88,630	JC より(2010 申請分)(10 個)
・ Section 支援金 (WIE)	100,000	JC より(講演会等)
・ Section 支援金 (Student Branch 支援費)	50,000	
・ 懇親会費徴収	130,000	総会懇親会
◆2010 年からの繰越金	2,026,788	
合 計	7,316,342	

84 円/\$として計算

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4x(Fellow, Senior 会員数=190) + \$3x(Member, Associate, Student 会員数=2,015) + \$1.5x(Affiliate 会員数=133) + \$200x(Chapter 数=10) } x1.10 + \$200(Section Bonus) + \$75x4(Chapter Bonus:SSC37,CAS04,MTT17,PHO36) ※会員数は、2010.12 月末現在

支出の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	3,344,808	
・ Japan Council 拠出金	3,134,808	\$37,337(2010 年実績)
・ Chapter Rebate	210,000	(\$220×10+\$75×4=\$2,500)
◆会合・AWARD 費	1,674,430	
・ 総会費	330,000	会場費,懇親会費,資料代など
・ 講演会	90,000	3 名分
・ 理事会費	200,000	会場代,飲食代
・ Committee 会合費	300,000	MDC/SAC2 回、COC
・ GOLD Award 費	163,800	楯代
・ 学生研究奨励費	362,000	賞金,賞状代、交通費補助△1
・ 支部メダル費	88,630	造幣局(10 個)
・ Student Branch 支援費	40,000	立命館大 EPC
・ WIE 支援費	100,000	講演会等
◆事務経費	790,500	
・ 外部監査費	210,000	本部支援費で充当
・ 事務用品費	2,000	ファイル等
・ 旅費	0	△1
・ 通信費	22,000	郵送費,宅急便等
・ HP 作成外部委託費	556,500	関西支部 HP 改定
◆雑費	20,000	為替手数料,振込手数料など
◆2012 年への繰越△1	1,486,604	
合 計	7,316,342	

84 円/\$として計算

VIII 受賞者

IEEE 関西支部 GOLD 賞受賞者

計 3 名 (アルファベット順、敬称略)

岩居 健太	(関西大学)
金子 幸広	(パナソニック)
Ehssan SAKHAEI	(大阪大学)

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者

計 12 名 (アルファベット順、敬称略)

Dawood Alnajjar	(大阪大学)
古田 潤	(京都大学)
黄 恵聖	(大阪大学)
北村 拓也	(神戸大学)
桑原 章紘	(京都大学)
I Wayan Mustika	(京都大学)
Marie Engelen J.Obien	(奈良先端科学技術大学院大学)
奥山 倫弘	(大阪大学)
齊藤 優樹	(京都大学)
清水 崇之	(同志社大学)
清水 康弘	(関西大学)
田中 亜実	(立命館大学)

IEEE 関西支部 メダル受賞者

計 10 名 (アルファベット順、敬称略)

Alberto Oscar Adan	(シャープ)
石渕 久生	(大阪府立大学)
柏 卓夫	(古野電気)
馬 書根	(立命館大学)
松尾 直人	(兵庫県立大学)
小澤 誠一	(神戸大学)
田中 毅	(パナソニック)
上田 修功	(日本電信電話)
上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
山田 哲生	(パナソニック)

IEEE 関西支部 新 Fellow

計 1 名

(敬称略)

杉浦 博明	(三菱電機)
-------	--------

IX Bylaws

IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Regional Activities Board (RAB) Bylaws and Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by RAB, includes the following:

Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive.)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary & Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section 4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs
representatives of Chapters,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of an three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30

Close nominations by petition: by October 31
Hold election: by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, RAB Bylaws and RAB Operations Manual.

2011 年 IEEE 関西支部連絡先

〒554-0024 大阪市此花区島屋 1-1-3
住友電気工業株式会社 研究統轄部内
IEEE 関西支部事務局

e-mail : sec-kansai@ieee-jp.org

Web URL : <http://ewh.ieee.org/r10/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>